



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2022.11.25 号

夏見台幼稚園・保育園でのこ
わりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

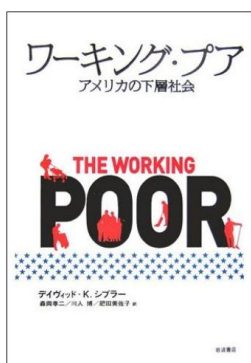
なぜウマの赤ちゃんはすぐ立てるのか？



園の給食室にある大きな釜。これは鉄釜です。
鉄分は子どもの発達にとっても大切。調理器具に
「鉄」を取り入れるのは昔ながらの知恵です。
それでは鉄分が不足すると、なぜ具合が悪いの
でしょうか？

アメリカ社会のすさまじ
い格差を知らしめた「ワー
キング・プア～アメリカの
下層社会～」(D・シプラー
著、岩波書店)という本。
その中には「子どもの栄養
状態」に関する章がありま
す。大変重要なことが書かれておりましたので
ご紹介します。それは幼児期の鉄分の不足に関
する調査です。

「いくつかの陰鬱な研究結果によれば…」と
文章は続きます。



過去数十年に渡り、脳の科学的理解が進む
につれて栄養失調が引き起こす脳のダメージ
についても研究が進んでいる。その重大な例
の1つに鉄分の不足が挙げられる。

幼児期にひどい鉄分不足を経験した子ども
は、のちに不足が解消されても、脳機能の遅
れを取り戻せないという。彼らは青年期にな
っても、「算数の学力試験や作文、運動機能、
そして、空間記憶と選択的回想といった特定
の認識プロセス」能力において劣ったままで
ある。

子どもの発育研究に関する資料を集めた、
全米科学アカデミーの長大な報告書『ニュー
ロンから近隣コミュニティまで』によれば
(中略)鉄分は脳の発達における多くの点に
おいて不可欠なものである。その主要点とは、
大きさから見た脳や髄鞘(ずいしょう)の形
成であり…

ワーキング・プアの家庭ではジャンクフード
など既製の食品ばかり食べているため、この鉄
分不足が深刻であることを小児科医が警告して
いました。

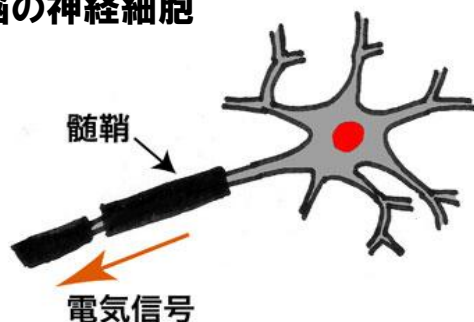
ここで話題は変わりますが、写真をご覧くだ
さい。ヒトと違って、ウマの赤ちゃんは生まれ
るとすぐに立ち上がります。



動物の運動を支配しているのは脳。では人間
の赤ちゃんの脳とウマの赤ちゃんではどこが違
うのでしょうか？

その1つに、脳の神経線維を包む「髄鞘」の
存在が上げられます。

脳の神経細胞



電気のケーブルは絶縁体のカバーに包まれることで、漏電せず信号が伝わります。考え方としては脳も同じです。



ウマの赤ちゃんは胎内で、後ろ足を動かす神経細胞の「髓鞘」を完成させます。これはウマのサバイバル・スキルです。敵に襲われてもすぐに逃げられるようにと。

しかし人間の赤ちゃんの場合は、電線で例えるとむき出しの裸線状態。絶縁体のケーブルが未完成です。動きが鈍いのはこのためです。

それが3歳頃になると、その配線工事は80%近くが完成します。それに合わせて子どもの運動機能が上がっていきます。

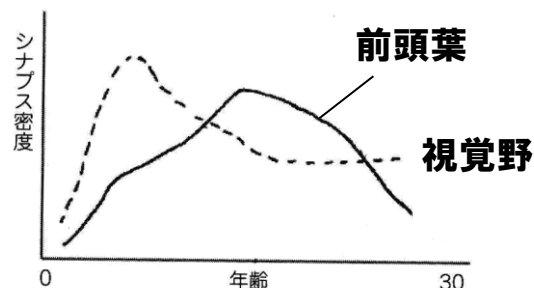
鉄分の不足はこの髓鞘の生成に影響を与える

というわけです。脳内での情報伝達の数値に影響が出ます。これは大変なことです。十分な栄養をとること。バランスよく栄養をとること。食育において重要なポイントでしょう。

だからといって、人間の脳の発達に3歳までに決まってしまう、というわけではありません。

動物実験で、早期教育の効果を強調するデータがありますが、あれは主として「視覚」と「聴覚」に限定されたもので、いわゆる人間らしさの脳である「前頭葉」での実験は行われていません。むしろ、前頭葉の脳内シナプスは思春期まで増える、といったデータがあるくらいです。

ヒトの脳では「前頭葉」は思春期まで発達する！



『脳の学習力』(S.J ブレイクモア他著、岩波書店) より

前頭葉の働きこそ、人間の高度な思考や意志、情報の統合であるわけです。この場所の髓鞘化、つまり配線の完成は10歳でも完成しないとのこと。実に、

20歳までかけてゆっくり

髓鞘化が進みます。「運動機能」→「感覚機能」→「思考機能」という順番です。子どもの発達順序を考えれば、まずは身体を使いましょう、といたいですね。

(終)